1.　調 査 報 告 概 要 表

作成日　平成21年　9月　4日

【評価実施概要】

事業所番号	０１７０４０１０１２		
法人名	アトム商事株式会社		
事業所名	グループホーム　あすか		
所在地	札幌市西区西町北１２丁目４番３号 （電　話）０１１－６７１－２５５３		
評価機関名	株式会社　サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年8月28日	評価確定日	平成21年9月24日

【情報提供票より】（２１年８月１２日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成　１６年　３月　８日	
ユニット数	１ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	12 人	常勤 2人、　非常勤 10人、　常勤換算 5.6人

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	2 階建ての　1 階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	45,000　円		その他の経費（月額）	水道光熱費：20,000円 暖房費：11,000円（10-4月）
敷　金	(有)（45,000　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） (無)		有り の場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	230　円	昼食	230　円
	夕食	540　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要（　８月　１２日現在　）

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護１	3	名	要介護２	4	名
要介護３	0	名	要介護４	2	名
要介護５	0	名	要支援２	0	名
年齢	平均	85 歳	最低	80 歳	最高　91 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	勤医協西町クリニック・なかお歯科・高橋脳神経外科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の家族が利用者として居住し、暖かい雰囲気で利用者本位に配慮のあるグループホームである。２階はデイサービスセンターと居宅支援事業所となっており、連携をとりつつ、合同の納涼祭を実施して地域の住民が参加し良好な関係が出来つつある。比較的自立度の高い利用者が多く、手作りの作品など個性を活かした取り組みをして居間や廊下に掲示し、楽しみつつ過ごしている。行事等の企画書のみでなく、終了後の報告書や反省なども整理し、経過の積み重ねで向上し、さらに質の高いケアのあり方を模索した取り組みを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	地域とのつきあい・市町村との連携・重度化や終末期に向けた方針の共有、以上３点については取り組みが見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	運営者と管理者が中心となって自己評価の意義などを確認し、各項目について話し合い、検討した。特に、前回の評価結果については時間をとって話し合い、見直して取り組みをした。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は3ケ月毎に開催し、地域住民、利用者代表、家族代表、包括支援センター職員など幅広い出席で話し合いをしている。運営者が地域に長年居住し、日頃から地域との連携は良好である。話の内容は検討して運営に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	玄関に意見箱を設置しているが利用はみられない。面会時や年に１度の家族会で意見を言える雰囲気づくりを設定し、気軽に話し合い良好な関係をつくり、家族が不安のないように配慮している。又、話された内容について運営者と管理者とで検討し、日々のケアに活かした取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	事業所は町内会に加入し、町内の行事に参加する姿勢を持っている。毎年法人全体で納涼祭を開催し、地域の中で意義あるイベントとして定着しつつある。ボランティア受け入れや、利用者本位の企画は多くの人に喜ばれている。「こどもＳＯＳ」に協力している。

２．　調　査　報　告　書

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時の理念を見直し、地域の中で暮らし続けることを思いやりをもって支援しようと、職員が中心となって考えて作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	居間の見やすいところに額入りで掲示し、毎月の会議で職員は確認しつつ、具体化に向けて努力している。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年開催する納涼祭は法人全体で取り組み、地域の中で意義あるイベントとして定着しつつある。又、町内会に加入して協力を惜しまない体制つくりを目指している。「こどもＳＯＳ」に協力をしている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と管理者が中心となって、自己評価や外部評価の意義を職員と共有し、内容の検討をした。特に、前回の評価については時間をとって見直しをした。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	３ヶ月毎に開催し、地域住民、利用者代表、家族代表、包括支援センター職員など幅広い出席で話し合いをしている。運営者が地域に長年居住し、日頃の連携を良好にしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市の管理者連絡会の役員として関わりをもち、日常的に意見交換など相談できる体制になりつつある。区役所の保護課との連携も良好である。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、利用者の表情がわかる写真入を各月、さらに、個別のコメントを書き添え家族に送っている。また、金銭の明細も領収書を添付して同封している。なお、職員の異動についても「たより」の中に掲載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、利用はない。面会時や年に１度の家族会で意見を言える雰囲気づくりを設定して、気軽に話し合いをし、内容について運営者と管理者とで検討して日々のケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員が変わるのを極力抑えるように、勤務体制に無理がないように配慮している。多くの職員が関わることで、ダメージを防ぐ工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のお知らせはしているが、積極的な参加は少ない。また、内部の研修についての計画や、実施の積み重ねがみられない。	○	職員の資質の向上と共通理解、チームワークの充実など職員研修への取り組みを期待する。開催時についての工夫が求められる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームとは、行事の参加や職員の交流など新しい取り組みが開始されつつある。さらに、９月には区の合同食事会が利用者を含めて企画されている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人は、デイサービスと支援事業所を運営し、馴染みの関係で入居に至る場合もある。出来る限りスムーズな流れになるように、見学や話し合いなど時間を多くとって相談を重ね工夫している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の関係を暮らしの中でパートナーとして一緒に過ごす時間を共有している。昔の遊びをしたり利用者から学ぶ姿勢を大切にして支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を聞くようにしている。意思表示が困難な場合は本人の表情や家族からの情報をくみ取り、本人本位に検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用開始時は、家族や本人の希望や要望、在宅時の介護計画などの情報を参考にして、暫定的な介護計画を作成している。日々の申し送りで個別の介護計画について話し合い、利用者に変化がなければ、利用開始時の介護計画の見直しも３ヶ月後に行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、計画作成担当者が職員からの情報や、「ケアプラン実施記録兼ケース記録」に書いてある情報を基に、３ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の体調変化などにより随時介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて、個別に美容室への送迎を行ったり、以前住んでいた家を見に行くなど柔軟な支援を行っている。。訪問看護を利用して入院を回避し、事業所での点滴対応を行うなどの支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望に応じて継続受診が可能である。現在、３名はかかりつけ医を継続受診している。かかりつけ医の受診は家族が引率しているが、日常生活の報告が必要な時や、家族が都合の悪い時は、職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りに関する指針」や「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、利用開始時に家族や利用者に説明し、署名を得ている。家族の希望や本人の状況により、看取り対応も可能な体制である。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩に対して、誇りを損なうような否定語や制止する言葉、また抑止するような言葉は使わないように心掛けている。利用者の個人記録などプライバシーに関する書類は事務所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間、食事前の体操などある程度の流れはあるが、利用者の状況に応じて柔軟に対応している。計算ドリルや間違い探しを行うなどの時間があるが、無理強いする事なく、それぞれの利用者に応じて参加してもらうように配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の誕生日には食べたい物を聞いたり、意思表示しない利用者に対しては、日頃の食事の様子から、好んで食べている物を選んで誕生日に提供している。食事の準備は特定の利用者になる事が多いが、食器拭きなどの後片づけは職員と共に行う利用者も多い。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後に行っているが、利用者の状況に応じて午前中に入浴する事もある。入浴拒否者に対しては、職員が交代で声かけしたり、家族の協力を得て一緒に入浴してもらうなど、清潔面に配慮している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物やちぎり絵、職員手作りの絵合わせ、ジグソーパズル、短歌を作り投稿するなど個別に楽しんでいる。今年度は、個別支援での対応を中心に、利用者の希望に応じ１対１での対応に力を入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	特定の利用者だけが外出する事なく、利用者の希望に応じて、職員配置や活動内容を考慮しながら、可能な限り散歩に出かけたり、日光浴ができるように支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠する事なく、利用者が外出した時は職員が同行し、安全面に配慮している。利用者とのコミュニケーションを多くしたり、好みの物を提供して不意に戸外に出ないように工夫している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜、それぞれに火災時のマニュアルを作成し、災害時勤務時間帯における職員の役割分担を決めている。昨年は、消防署の緊急事態により自主訓練になったが、通報、避難誘導などの訓練は運営推進会議時に行った。自主点検は、定期的に行っている。	○	今年は、夜間想定の避難訓練を含め年間２回の避難訓練を予定しているので、その取り組みに期待したい。職員は、救急救命の講習を定期的に受講し、緊急時に備えた取り組みを期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部業者に委託し、栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者の食事摂取量、水分摂取量を毎日記録して職員全員で情報を共有している。利用者の摂取状況に応じて、ミキサー食やお粥など食べやすい様に配慮している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の大きな窓からは、庭のプランターの花や野菜、戸外の景色を見る事ができ、季節感を感じる事ができるようになっている。廊下や居間には、利用者の手芸作品や俳句、ちぎり絵などが飾られ、利用者が自分の家のように落ち着いて過ごせるような工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドやタンス、テレビなど使い慣れた家具や好みの物が持ち込まれ、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫がなされている。居室は、温度計と湿度計、暖房時の湿度調節用のタオルかけを設置し、健康的に居心地良く過ごせるように配慮がなされている。		

※ □ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。